

■ブラジル：電力関連資産、投資家は購入に慎重姿勢

2016年3月3日付の報道によると、ブラジルでは多くの電力関連資産が売りに出されており、同国で事業を展開している中国や日本などの外資系企業には事業拡大のチャンスになっている。ただし、政治的および経済的な不確実性が新規参入者の投資を敬遠させているとしている。売却案件は、Duke Energy 社が所有する水力発電所や Petrobras 社が所有する火力発電所、Renova Energia SA 社の風力発電所や配電会社 Celg 社など多数ある。政府は先日、2015年の実質経済成長率はマイナス3.8%という予測を発表していることに加え、国有石油会社絡みの汚職問題などから現政権の支持率が低迷し、投資家の信頼を損なっているとも報じている。